

議決権行使レポート

証券コード 6113

会社名 株式会社アマダ

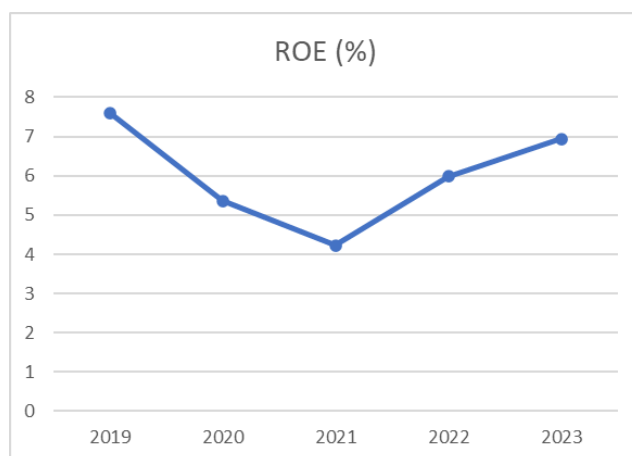
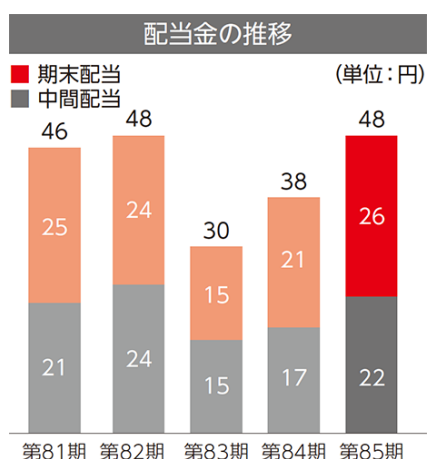
	賛成	反対	棄権
第1号議案 剰余金の配当の件	○		
第2号議案 取締役9名選任の件			
磯部 任 氏	○		
山梨 貴昭 氏	○		
田所 雅彦 氏	○		
山本 浩司 氏	○		
三輪 和彦 氏	○		
笹 宏之 氏	○		
千野 俊猛 氏	○		
三好 秀和 氏	○		
小部 春美 氏	○		
第3号議案 監査役3名選任の件			
柴田 耕太郎氏	○		
藤本 隆 氏	○		
竹之内 明 氏	○		
第4号議案 補欠監査役1名選任の件			
村田 眞 氏	○		

上記の推奨をした理由

<第1号議案 剰余金の配当の件>

株式会社アマダ（以下、アマダ）は公表の予想のとおり当期の剰余金の配当を1株につき48円とした。配当性向は前期の47.6%から微増しておよそ48.9%となっている。ISSは配当性向15%から100%の場合、通常は賛成を推奨するという判断基準を定めており、アマダの配当性向はこの基準を満たしている。さらにアマダの配当金の推移とROEの推移を比較すると両者の間には相関がみられる。前期から今期にかけて配当金は10円増額しているが、配当金の増額に伴ってROEも上昇している点と、財務報告から算出した企業の成長性（売上高前年比約117%）が十分にあるという点から、この配当金の引き上げは妥当であると考え。したがって本議案に関しては賛成を推奨する。

（以下はアマダによる配当金の推移の報告と、財務報告から算出したROEの推移を示したものである。）



### <第2号議案 取締役9名の選任>

アマダの過去5期のROEの平均値は約6.0%となっている。ISSは企業の過去5期平均のROEが5%を下回っている点で資本生産性が低い状態にあり、今後の改善傾向がみられない場合、取締役の選任に対し反対を推奨するという基準を設けていた。アマダはこの過去5期平均5%という基準を満たしている。加えて2021年から2023年にかけてROEが上昇傾向にあり、今後のさらなるROEの改善が予測されることから比較的健全かつ安定的な経営状況にあるといえる。

また候補者のうち9名中4名が社外取締役であり、ISSの定める社外取締役3分の1以上という独立性に関する基準を満たしている。9名中8名が再任であるが、全員が取締役会の出席率100%であり問題は見られない。社内取締役の5名はそれぞれアマダでの豊富な業務経験と、企業経営やアマダの主要事業である金属加工機械についての幅広い知見を兼ね備えている。さらに海外事業の推進に携わった経験があり、グローバルな視点を持っている人材が多数含まれていることから、アマダの今後の海外へのさらなる事業展開において有利に働くと考えられる。社外取締役の4名においても、他社における豊富な経験と専門性をもった適切な人材が選出されている。加えて取締役の候補として女性の小部氏が選ばれており、取締役の多様性も一定程度は確保されていると考えられる。したがって取締役9名の選任の件に賛成する。

### <第3号議案 監査役3名選任の件>

監査役に関して、3名中1名は社外監査役であり独立性は保たれている。柴田氏は長年にわたり営業部門を統率し、中国やASEAN等での海外事業の展開を担当してきたためグローバル経営に関する豊富な経験と知見を持つ。監査役会や取締役会の出席状況に問題は見られないため、監査役として適任であると考えられる。藤本氏は新任であるが、管理部門の責任者を歴任した経験や国際金融に携わった経験から財務・会計に関する高い知見を有しており、客観的な監査を行える適切な人材であるといえる。竹之内氏は社外監査役で

あり、法曹界において豊富な経験と実績を有している。これらに基づいたアマダの監査体制に対する有益な助言が得られると考えられることと、過去のすべての監査役会、取締役会に出席していることから監査役に適していると考え。したがって監査役 9 名の選任の件に賛成する。

<第 4 号議案 補欠監査役 1 名選任の件>

補欠監査役の候補として選出されている村田氏は電気通信大学の教授を務めた経験を持ち、機械工学を中心とした深い専門知識や教育者としての高い知見を有している。アマダの中心事業である金属加工機械の製造に精通しており、会社の経営に関して専門的な立場から助言ができるという点で補欠監査役に適任であると考えられる。したがって補欠監査役 1 名の選任の件に賛成する。